

(研究ノート・調査・資料)

研究授業「養護内容」の実施

白坂直子

Implementation of the experimental “Care Contents” class

Naoko Usuzaka

Abstract

The present article describes the experimental “Care Contents” class that was offered as part of the “Research on Classes for Instructors in Early Childhood Care”, which is a program that was implemented in 2003 [Does this translation reflect your intended meaning?] in order to improve our Early Childhood Care Department (Special Budget to Promote and Upgrade University Education : 2003 Budget to Support Improvements in Education and Learning Methods). Experimental classes have been offered at our department on a trial basis since last year [For clarity, please consider indicating the specific year here.], and this is the sixth class since the inception of the program and the first class in 2005.

The objective of the present class is to teach students about problems experienced by children with disabilities, difficulties experienced by families who care for such children, and practical techniques for supporting children who require social care and their guardians. The class was attended by 92 second-year students majoring in early childhood care who had completed “Care Principles”, the prerequisite for the present class, during their first year of study.

本稿は、平成15年度から本学保育学科が実施している授業改善のための事業「保育学科における教員の授業研究の実施」（大学教育高度化推進特別経費 平成15年教育・学習方法等改善支援経費）の一環として行われた「養護内容」の研究授業の記録である。本学科の研究授業は昨年度から試行的に行われており、今回が6回目を数える。本講義は平成17年度としては初回の研究授業である。

1. 研究授業の日程

研究授業および検討会は次の日程で行われた。

〈研究授業〉

日 時：2005年6月22日（水）5校時 16：20～17：50

場 所：E202号教室

授業科目：養護内容（担当：臼坂直子）

参加者：他学科の教員を含め5名

〈検討会〉

日 時：2005年6月22日（水）6校時 18：00～19：30

場 所：A館1階会議室

参加者：他学科1名，本学科4名

研究授業として特別時間割を設定していいないため，本学科の教員であっても授業時間が重なり研究授業に参加できない場合があった。

2. 本科目の目的と授業計画

【目的】

本科目は，障害などの本人自身の問題や養育困難などの家庭の問題などがあり，社会的な養護を必要とする，子どもや保護者への実際的な支援方法を学ぶことを目的としている。

【授業計画】

第1講 オリエンテーション

第2講 子どもの養護と保育士

社会的養護の概要 施設保育士と保育所保育士の専門性

第3講 施設養護の現状

事例検討：保育士と対象児の葛藤場面 「けんか」の対応

第4講 施設養護のプロセスの展開

事例検討：Plan-Do-Seeのプロセス 援助目標達成の評価と退所後のケア

第5講 児童養護系施設における基本的な援助・支援

非行，不登校，虐待などの問題行動の特徴と対応：ADHD

第6講 障害児系施設における基本的な援助・支援

気になる子ども（多動，遅れ）の特徴と対応

第7講 こころの援助(1)被虐待児とのかかわり

事例検討：被虐待児とのかかわり 虐待をする親の心情 保育士の役割

第8講 こころの援助(2)コミュニケーションの仕方

＊本時

第9講 親子関係の援助

第10講 地域・学校との関係づくり

第11講 自立の考え方

第12講 自立に向けた支援・援助

第13講 児童福祉施設の運営管理

第14講 児童福祉施設における保育士の資質と倫理

第15講 総括

3. 受講者の実態

本科目は保育士資格取得のための必修科目で、「保育の内容・方法の理解に関する科目」に位置付けられている。従って本科目の受講者は保育士資格の取得を目指しているものとして授業を進めてきた。受講者は、保育学科2年生92名であり、全員が1年次に本科目の基礎となる「養護原理」を受講している。本科目は、障害などの本人自身の問題や養育困難などの家庭の問題のある子どもや保護者への対応方法についての実践力を身に付けることを主眼にしているが、受講者の多くは、養護施設に就職せず、障害のある子どもにかかわるケースも少ないため本教科への関心が持ちにくいようである。

4. 本講義の授業計画案

養護内容	保育学科2年92名	第8講	2005年6月22日(水) 5校時
題 目	心の援助(2)コミュニケーションの仕方		
目 標	・子ども・家族支援のためのコミュニケーションのポイントを知る。 ・模擬練習をとおして、信頼関係を築くやり取りの仕方を具体的に学ぶ。		
講義内容・学習活動・指導上の留意点			
1. 前時の感想等 紹介	分 7	・前時で見た虐待のビデオの感想等の紹介をする。	

2. コミュニケーションの仕方 練習1 練習2	10	・子どもや保護者と良い関係を築くための、コミュニケーションのポイントを知らせる。
	20	・ポイントに留意してやり取りの練習をする。
	8	・挑発的な態度をとる子どもに対するやり取りの練習をする。
3. 家族画を用いたコミュニケーション 家族画 やり取り練習	10	・家族関係に問題があり、心的ストレスが強い場合の心の援助として、家族画を用いた事例を紹介する。
	15	・家族画を作る（貼り絵、描画）。
	10	・心的ストレスのある子どもや保護者を想定して、家族画を手がかりにやり取りの練習をする。
4. まとめ	10	・ワークシートの整理をする。

5. 研究授業の反省

授業者は本学に赴任して2年目で、まだ、授業の流れや受講者の状態が見えず、毎日が手探りであった。受講者のニーズを考えると、本科目が目指す社会的養護の実践力が必要とされる児童福祉施設に就職する学生が皆無に近いことから、どこに焦点をあてればいいのかに戸惑っていた。受講者のコメントからも、障害のある方や家庭に問題のある子どもたちにかかわったことがほとんどなく、関心がわからない者がたくさんいることが分かった。

「社会的養護」に関する体験をほとんど持たない受講者に対して、どのように「養護内容」に関心を抱かせるかが大きな課題であった。この問題は多様なケースの体験が一番の学びであるため、実感のわきにくい座学での授業進行に頭を抱えてしまっていた。また、授業者の過去の経験から、保育現場の経験者による研修においては、グループ討議が積極的になされたが、体験や実感がほとんどない学生に、実践場面を想定させてグループ討議させることの意義が見出しにくかった。また一方では、受講者が関心を持とうが持たまいが、教科書やシラバスの内容を教えなければならないとの思いもあり、結局中途半端な思いのまま、中途半端な授業を進めているのが現状であった。本授業においても、教える内容や方法に戸惑いを抱えたまま進めており、授業者の頭の中で、計画が二転三転し、結局最後まで焦点が定まらない授業となってしまった。

このように、授業経験の未熟な授業者にとって、授業の検討会を実施することは有意義であった。実際の検討会において、教室が広く座る位置がばらばらで、グループ討議に向

かない環境であること、用意したプリントのコメント記入スペースが広くて受講者は文字を埋めるのに必死になり肝心な話し合いができていないこと、説明が不十分なまま次の課題へ行ってしまうたり、授業者の意図が的確に伝えられてないため受講者とのキャッチボールがちぐはぐになってしまったりしていることなど、多視点からの的確で丁寧な御指導をいただいた。研究授業後は、あれもこれも教えなくてはと授業者が困惑し、余裕がなく迷ったままでは、すべてが中途半端で授業を流してしまうと反省し、まずは、教える内容を欲張らず、極力内容を絞ること。また、体験のない受講者のために、より具体的な内容について作業活動を交えて時間をかけて教えることを心掛けるようにした。具体的な点としては、ワークシートの自由記述枠の大きさや座席配置に気をくばったり、受講者の反応を見ながら質問や説明を変更したりするなど、僅かずつではあるが、検討会での助言が実際の授業改善に役立っている。研究授業前に比べて、授業者の迷いが少しずつ整理され余裕ができてきたため、一番の課題であった養護内容への興味・関心を持たせ、実感を抱かせる工夫として、養護施設、障害のある方、ドメステックバイオレンス等の事例として、手記、コミック漫画、ビデオなどを導入で取り入れるなど、授業の工夫・改善ができた。

授業経験の未熟な授業者に対して、本研究授業に協力してくださった学生の皆さんを始め、貴重な御指導御助言をいただいた先生方に心より感謝いたします。

引用文献

- 辰巳隆・岡本眞幸，2004 保育士をめざす人の養護内容 みらい
横井一之・吉弘淳一，2004 保育ソーシャルカウンセリング 建帛社
飯田進・大島恭二・小坂和夫・豊福義彦・宮本和夫，2004 保育内容総論 ミネルバ書房
民秋言・小田豊・栃尾勲・無藤隆，2004 養護内容 北大路書房

補助資料

資料1

1 コミュニケーションのポイント

① 話を続けるための聞き方

話が広がる質問

答えが制限されやすい質問	答えを制限しない質問
楽しかった？	なにが楽しかった？
がんばった？	一番がんばったのはどこ？

② 話の内容をどのように受けとめたかを伝える

「それは〇〇〇〇ということ？」

相手の話を要約して返す，確認する → 聞いてくれた！

③ 感情を受けとめて応答する

「あなたの困っていることは〇〇なのね。」

「あなたがAさんに頼みごとをしても無視して聞いてくれないから，辛いということ？」

「その人に腹が立ったのね」

聞き手が評価しない，判断しない，聞き手の感情を出さない，話し手の話の内容や話し手の状態を言葉で返す

×「それはあなたのわがまま」「そう，いじわるな人ね」「そんなことされたら私も腹が立つよ」

④ 話の焦点を絞る

×「話が分からなくなってきた」

さりげなく，話の展開を修正する。「ところで，さっきいった〇〇のことだけど」

「そっかー，Aちゃんは，〇〇と△△と◇◇といっぱい話したいことがあるんだね，一つずつもう少し詳しく聞かせて，どの話からにしようか？」

⑤ 言葉と態度の一致

聞き手に不愉快な感情が出てきたら，感情を押さえ込まず，何をどう感じたかを伝える。

×怒ってないよ

×怒鳴り返す

〇Aちゃんとたくさん話がしたかったのに，怒った顔して大きな声で怒鳴るから，悲しくなったよ。大声出さず，ゆっくり話してくれたら，もっともっと聞きたくなるよ。

資料2

緊張度の高い人間関係の子どもや家族とのやり取りの練習

家族画を利用してみよう

- ・言葉では見えないものを感じる
- ・話のきっかけをつかむ
- ・相手の感情を言葉にして返す

家族画・人間関係画を利用したやり取り練習

1 二人組（三人組）になる。被相談者と相談役を決める。

被相談者

◇あなたが直面している、ストレスのある人間関係を決める

（家族：同居，別居，親戚，ペットなどあなたに影響のある方々）

（実習，バイト，部活，友人など）

（自分の人間関係は表現しにくい方は，教科書の事例やビデオの事例，架空の事例を作るなどして，母親やその子どもの役になる）

2 **相談役**が進行する。

(1) 導入

- ・最近の様子など，聞きやすいことや話しやすいことから入り場を和ませる。

(2) 被相談者の問題を探る

- ・話の流れの中から，被相談者のかかえている人間関係の問題を探る。

(3) 家族画・人間関係画作り（貼り絵，描画）

- ・家族画・人間関係画のメリットを伝え，画を作るように促す。

[メリット]

問題を整理したり，本人の気付かないことが見えてきたりする。

- ・相談役は，被相談者作成中，人間関係の状況を冷静に思い出せるように，励ます，確認する。
- ・本人だけで作りたい場合は，相談者も自分の家族画・人間関係画を作る。

(4) 家族画・人間関係画を見ながら話す

- ・出来上がった作品を見ながら，色，形，大きさ，位置関係などを見比べ，被相談者が，描かれた人をどのように捕らえているのかを，自己確認できるように促す。
- ・画を見ながら，問題を引き出していく。

資料3

コメント

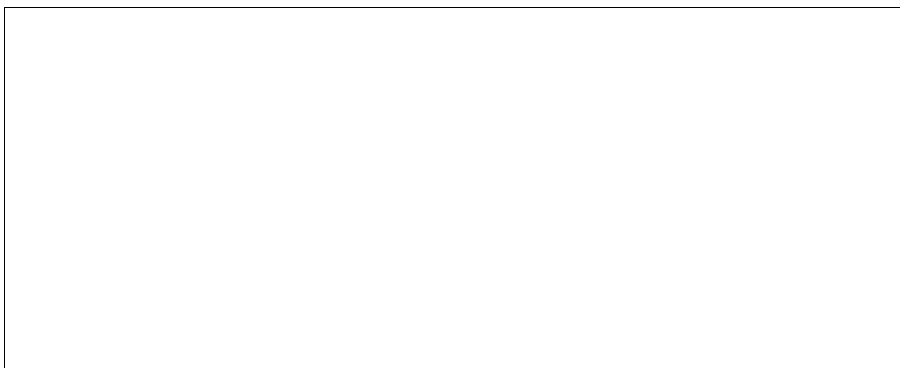
家族画・人間関係画を利用したやり取り練習の感想

被相談者の感想

新たに気付いたことがあるか？

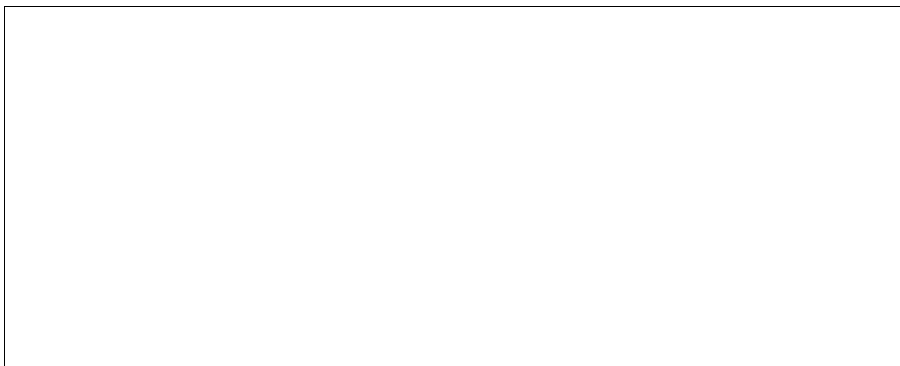
話がしやすかったのはどういう点か？

触れられたくないこと、聞かれたくないことはあったか？



相談役者の感想

難しかった点、工夫がある点、良かった点など



資料4

練習1 やりとりの練習をしよう

(1) 聞き手と話し手の役を決める。自分の役割に○を付けましょう。

聞き手 話し手

(2) 話し手は話したい内容をこっそり決める。

- ① 実習の時の悩み、楽しかったこと
- ② 最近の友人関係
- ③ 就職の不安
- など

(3) やりとりを練習する

聞き手は、コミュニケーションのポイントに気を付けたやり取りをする。

(4) 練習の評価

聞き手が、うまくできたと思うもの、がんばった項目に○をつけてください。

① 話を続けるための聞き方…………… ()

話が広がる質問がうまくできた様子、また、うまく行かなかった様子を□にお書き下さい。

② 話の内容をどのように受けとめたかを伝える…………… ()

相手の話を要約して返す、確認することがうまくできた様子、また、うまく行かなかった様子を□にお書き下さい。

③ 感情を受けとめて応答する…………… ()

聞き手が評価しない、判断しない、聞き手の感情を出さない、話し手の話の内容や話し手の状態を言葉で返すことがうまくできた様子、また、うまく行かなかった様子を□にお書き下さい。

④ 話の焦点を絞る…………… ()

さりげなく、話の展開を修正することがうまくできた様子、また、うまく行かなかった様子を□にお書き下さい。

⑤ 言葉と態度の一致…………… ()

聞き手に不愉快な感情が出てきたら、感情を押さえ込まず、何をどう感じたかを伝えることがうまくできた様子、また、うまく行かなかった様子を□にお書き下さい。

資料5

練習2 挑発的な態度をとる子どもとのやり取り練習 ポイントの③と⑤に留意しましょう。

(1) 指導員と被虐待児の役を決める。自分の役割に○を付けましょう。

指導員 被虐待児

(2) 役割演技（ロールプレイ）場面 p74のA子とB指導員との話の続きを演じる。

翌日、B指導員は、A子の同室のD子の給食のエプロンをアイロンしなければならないから、ついでにA子たちのハンカチやシャツのアイロンをしようと、A子たちの部屋に入ろうとする。A子が、「あんたは、あたしたちの部屋には入らさん」と昨日のことを持ち出して、激怒する。

(3) やりとりを練習する

B指導員が、A子のいる部屋に入ろうとする場面から、役割演技をしましょう。

B指導員役は、③と⑤のポイントに気を付けながら、A子とやりとりをしましょう。

(4) 練習の評価

B指導員が、うまくできたと思うもの、がんばった項目に○をつけてください。

① 感情を受けとめて応答する…………… ()

聞き手が評価しない、判断しない、聞き手の感情を出さない、話し手の話の内容や話し手の状態を言葉で返す

② 言葉と態度の一致…………… ()

聞き手に不愉快な感情が出てきたら、感情を押さえ込まず、何をどう感じたかを伝える。

◇B指導員役をした感想を書きましょう。(良かった点、がんばった点・難しかった点)

◇A子役

B指導員の言動に対して、どう思いましたか？B指導員の良かった点、もうちょっと工夫したら良い点などを書きましょう。

高松大学紀要
第45号

平成18年3月25日 印刷
平成18年3月28日 発行

編集発行 高松大学
高松短期大学
〒761-0194 高松市春日町960番地
TEL (087) 841-3255
FAX (087) 841-3064

印刷 株式会社 美巧社
高松市多賀町1-8-10
TEL (087) 833-5811